まい あーと・ファンタジック ディスプレー「Seaside '86」by 瀬下亜理子

# 元気に走れば、愉しく走れば。

●「ふとんの青木」立川マラソンにも毎回上位入賞というベテランぶり。もてる力を少年少女たちにも――青木誠一氏の“大きさ”がうかがわれる。（若葉町1丁目）

➡すっかり盛り上って名門亭の御子息、小泉潤くんも登場。〔手前〕

チームメートから“お母さん”とよばれる小泉ひろ子さん〈名門亭〉

デイブ・ダウン[illegible]（砂川町在住）

忙しさにまぎれて『深呼吸』をすることさえ忘れそうな昨今、ジョギングこそ、格好のチャンス。現代人が生んだ「心の体操」ともいえよう。それが証拠に、ジョギングは速さを競わない。仲間との連繋を保ちながら、あるいは、孤独をかみしめながら、走る。走りながら、『本物』の個性が磨かれる。愉しきかな、ジョギング。

〔右から〕大前重夫、阿南 實、戸田雄一、鈴木 昭、本庄 勉の各氏。みんな日立電子サービス〈柴崎町二丁目〉

●酔走会/「酔うために走る」のが「走ってから酔う」のか、ご当人たちに云わせれば「走ることに酔う」のだと！それにしてはよく呑みますなあ。「名門亭」の奥さまなんぞも、ワルノリして時にクルイ走るとか。（柴崎町2丁目）

尾作弥生さん〔左〕と荒井万寿子さん〔右〕二人とも〈曙町〉

阿部美奈子さん〈栄町〉

富樫みさ子さん〈砂川町〉

谷本周一さん〈富士見町〉

●ジョギングは独り黙黙とひた走るのにも向いている。彼らの表情は、時に哲学者のごとく、鋭さを増す。「心を翔ばす」絶好のシィチュエイションなのであろうか。今日もお元気ですか？ ジョギング、愉しいですか？


スコッチEG
バックコーティングを本格採用した唯一のスタンダード

たちかわ伝言板

7/6（日）午后1時より
氷彫刻まつり
立川北口大通りで開催
竜、五重塔など 氷柱ずらり!!
氷でまきお広場、ドリンクコーナー、輪投り、かき氷など イベントがたくさん!!

6/1（日）
「ゴミゼロ運動」に鈴木都知事が陣頭
この日、東京都が"ゴミゼロ・キャンペーン"を展開。ちょうど同日は早朝から"クリーン多摩川"に多くの市民が参加したとあって「立川をきれいにしよう」の呼びかけを、鈴木都知事みずから"ミス東京"も交えて参加しました。

# 尋ね人　歴代の美女をご存知ですか？

『ミス立川』が誕生して三十年目。去年までに二九人の"美女"が誕生しています。本誌は立川の"歴代の美女"を称える特集を企画させて頂きましたが、なかなか"ご当人"に訪ねあたりません。「東京新聞」の協力で、受賞当時の氏名・住所が明らかになりました。ご自身、あるいは周辺の方でお心あたりの方、当編集工房へ、ご一報を！

〔連絡先〕〒190 立川市柴崎町2-4-11 ☎0425(28)0082

①戸崎　けい　錦町2丁目
②渡辺美佐子　柴崎町1丁目
③中村　康子　富士見町5丁目
④中村　康子　③と同じ
⑤平島さと子　柴崎町4丁目
⑥木李　春枝　高松町2丁目
⑦中崎由美子　錦町3丁目
⑧小室　光代　柴崎町3丁目
⑨唐沢　好江　柴崎町3丁目
⑩玉井　里枝　羽衣町2丁目
⑪紅林八重子　柴崎町2丁目
⑫望月真理子　柴崎町2丁目
⑬高橋　秀子　羽衣町3丁目
⑭兼子由紀子　渋谷区神宮前3丁目
⑮垣見　久美　羽衣町3丁目
⑯山口　紀子　高松町3丁目
⑰井上美千子　栄町5丁目
⑱藤　芳枝　柴崎町3丁目
⑲山川佳代子　高松町2丁目
⑳佐藤　郁子　杉並区上荻2丁目（高島屋荻窪寮）
㉑当麻　千秋　砂川町1300
㉒清水ゆかり　高松町2丁目
㉓岩井　浩江　杉並区上荻2丁目（高島屋荻窪寮）
㉔野口寿美子　柴崎町2丁目
㉕斉藤由美子　柴崎町2丁目
㉖古田恵美子　八王子市川口町1890
㉗藤枝美奈子　上砂町1丁目
㉘井手　晴美　武蔵村山市伊奈平6丁目
㉙本田　康子　羽衣町1丁目
（敬称略）

# 無添加一品の味
## 天然かおる手作り醸造

三上鰹節店　曙町2丁目　(22)3259

手作りみそ、いいもんだそうですよ。自家製みそを作る人も増えつつあるとか。まっ白いご飯に良品の蛋白質、本枯節の削りたてをふりかけて、こうじのタップリと入った手作りみその一椀のみそ汁。日本の伝統食、なんといっても無添加一品。いただきましょう。

鰹夫婦節ともいって縁起物。旨みはカビづけにあるとか。

人工的に加熱して作る速醸みそと、ジックリ寝かせた天然みその味の、口中に広がる確かな違い。

石坂商店　曙町2丁目　(22)2886

★★インスタントの普及で袋入りの味。人工調味料に慣らされた現代人。無添加食品が身体にいいと見直され、探し求める「手作り」食品。おふくろの味いずこへ——。雨の日も風の日も頑固にのれんを守りつづける立川の店。こうじ、みそ、かつおぶし、天然醸造の深い味わい。"滋味がジワッと広がって、飽食時代に心のふれあう手作りの味。

こうじは料理のレパトリーも広く、鮮魚なども漬け込んだりする。郷愁をそそる甘酒もあったり…。

北島こうじ店　錦町1丁目　(24)3090

# 立川クイズ

日頃から地域に密着して治安を守る要所となる交番ですが、ズバリ立川市内にいくつあるでしょう。

〔6月号の答え〕明治元年の廃藩置県で神奈川県武蔵国多摩郡に柴崎村と砂川村が入りました。明治26年に三多摩郡が東京府に編入されるまでのことです。答えは①

①5　②8　③12　④18

## 漢字テスト⑥

空欄に一字押入を試みよ。

岡目□目
七転□起

うちの銀行
暮らしのハテナ？
ビジネスのハテナ？
なんなりとご用命くださ…
「？」を「！」にします。
立川支店
太陽神戸銀行
〒190 立川市曙町2丁目6番11号
TEL. 0425(22)2151（代）

# 表紙は語る

立川駅ビル「ウィル」9階のビューティ・タナカ美容室のショーケースを、季節ごとに年四本の作品で飾るのが瀬下亜理子さんだ。

明るい色調でポップな感覚の作品は前を通る人の足を止めさせる。

ショーケースを飾るのに別に制約はない。ならば楽しいものをと瀬下さんは考えている。

「何を作ろうかと思っている時が一番楽しい」と言う瀬下さんのアイデアの多さもなみではない。頭に閃めくものをひとつずつ合せて作品に盛り込む。不思議と作品から物語りが生まれてくるのはアイデアが生きているからだ。

頭で考えたファンタジーの世界をそっくり作品にしてしまうのが瀬下さんの真骨頂と言えるだろう。もちろん現実ではありえない風景ではあるが、それだけに逆にリアリティをもって、見る人に訴える。

「もっと夢のあるものを作りたい」と言う瀬下さんの秋の作品は決っているそうだ。楽しみである。

# 立川・歴史のひとコマ
## ⑥ 幻の城

錦町四丁目から羽衣町三丁目の火葬場にかけての高台に、昔、みのわ城という城があり、城主をみのわ次郎といったと伝えられています。この場所は立川段丘の突端で要害の地ですが、みのわ次郎がいつの時代のいかなる人物なのか、城がどんな形でどんな大きさだったのか一切が不明です。今に残るのは蓑輪橋などの地名と城の伝説のみなのです。

しかし、大正の頃には土塁や石垣などもわずかに残っていたようですし、昭和三〇年当時、光西寺が錦町から移転してきて火葬場の東隣の竹藪を整地した際、城のものらしい瓦や土器、五輪の塔、墓石、人骨などが出土しました。

この高台の下の「矢川の弁財天」はみのわ城主の守り本尊で、鬼門除けとして祀られたと伝えられています。『多摩のあゆみ』第一〇号にて羽衣町在住の岩間氏は、これを城の裏鬼門と考察、表鬼門を立川三中の校内と推定して調査したところ、校庭内に昭和一七年頃まで尺串神社という宮祠があったとの証言を得ています。

ところで「矢川の弁財天」はいつしか荒れはて、うっそうと木が生い繁る境内には弁財天様の眷族といわれる蛇がたくさん出没して妖気ただよい、たたりを恐れて誰もここに手をつけませんでした。

しかし何十年か前に、立川の地で難行苦行を重ねていたひとりの若き修行僧が、境内をきれいに整地。その夜ふけ、夢とうつつの間に憎に生ぐさい息を吹きかけ迫りくる大蛇が……。修行僧はこの大蛇を法力で封じこめるのではなく、相承の密印により霊と和合して魔性を浄めたということです。

修行僧はそれから三年続けて「矢川の弁財天」できよらかな法要を営みました。

今でもこの弁財天様は信心深いたくさんの人に守られているということです。

『立川のむかし話』より　（K・K）

# 真如苑だより

ときどき、カーッと強い陽が差します。夏がきました。だるい日が続きますが、克服法は集中力をだして仕事と取組み、あとは体をやすめる。午前中、仕事に精だして午後から真如苑へ行ってみる。

■日時　7月19日(土)　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

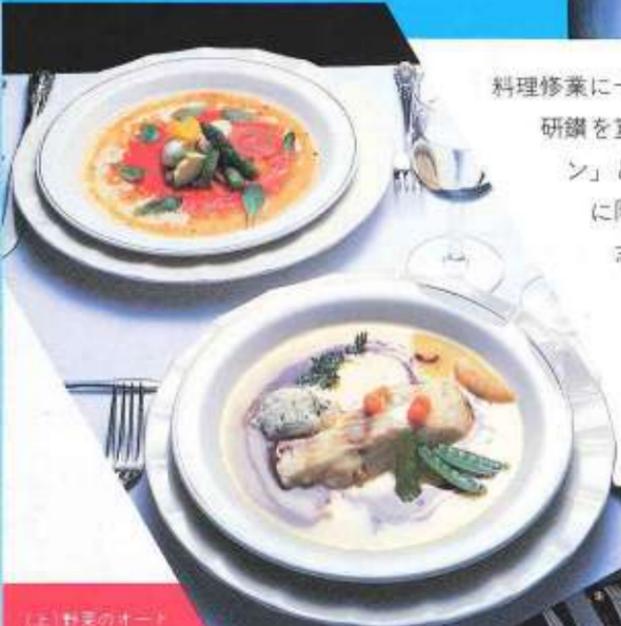
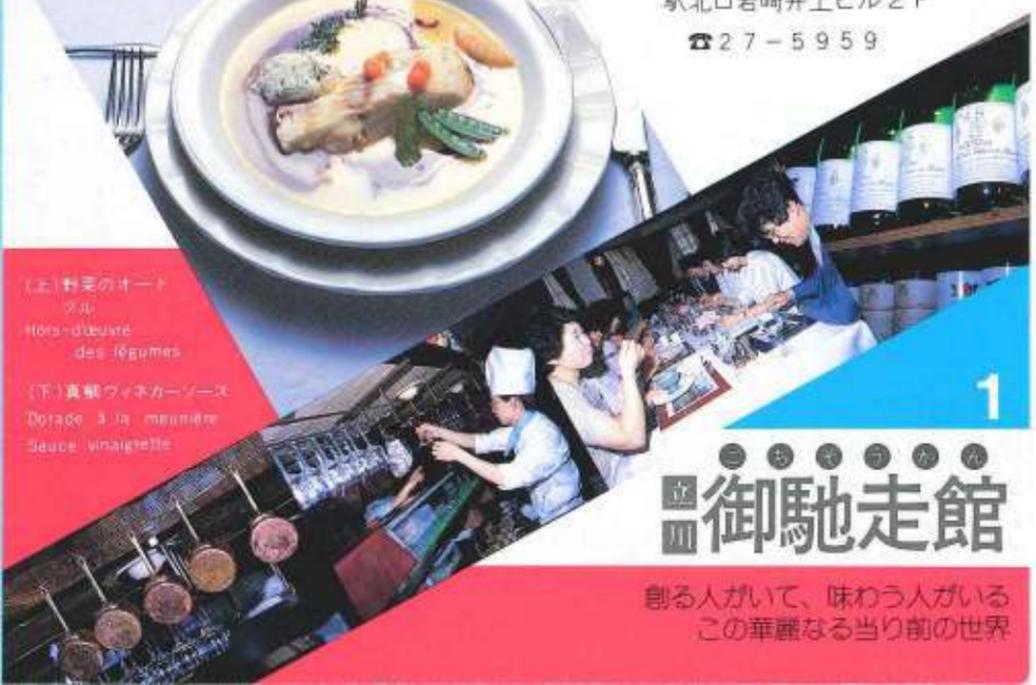
■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。

# 工房から

●「もう」と云ったらいいのか「まだ」と云ったらいいのか、ともあれ本誌創刊二周年を迎えさせて頂きました。吉例の「暑中見舞い」用絵はがきが、もうじき発行になります。今年は立川の風景をモチーフにした油絵、ご期待ください。●「クリーン多摩川」が6月1日に行なわれ、今年は特に盛大でした。本誌もツにのって、多摩川の源流をさぐろうなどとヨカラヌコトを考えております。●本誌編集員の山田が書いたエッセーが、津嘉山正種氏のナレーターでNHK・FMの電波にのります。「クロスオーバー・イレヴン7/8～7/13」。夜11時からの音楽番組なので「夜型」の人でないと聴けないかも知れません。●ふところに　川風あふれ　えくてびあん。

〈編集〉青木智司　石塚敦美　大野玲子　加賀桂子　神山清子　隅川理　田中恵子　原田礼子
〈写真〉天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてびあん　第24号
昭和六十一年七月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11　ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

看板から料理の"あたたかさ"が伝わってくる。
フランス家庭料理
ビストロ
シェ・タスケ
ビストロの最大条件はシェフ・パトロンの"志"と、研鑽の"技術"だ。
この木質を生かしたインテリアが、味をいっそうひきたてている。
料理修業に十年の歳月をかけ、フランスに渡って研鑽を重ねて、立川に店を出した。「レストラン」とせずに「ビストロ」としたところに岡野多祐さんの"志"がある。味は志だ。多祐さんの、やさしい、本格の"味がまえ"がうれしい。立川駅北口岩崎井上ビル2F
☎27－5959
(上)野菜のオードヴル
Hors-d'œuvre des légumes
(下)真鯛ヴィネガーソース
Dorade à la meunière
Sauce vinaigrette
1
ごちそうかん
立川 御馳走館
創る人がいて、味わう人がいる
この華麗なる当り前の世界